

国際海洋環境情報センター(GODAC)における 研究成果情報の社会展開に向けた取り組み

オープンサイエンスの推進に向け、研究成果情報の収集・管理・公開環境を整備するとともに、地域や社会との連携を通じた情報発信および社会ニーズの把握により、研究成果の価値向上と社会実装の促進に取り組む。

研究成果情報の公開・提供及び利用促進（公開情報技術運用グループ）

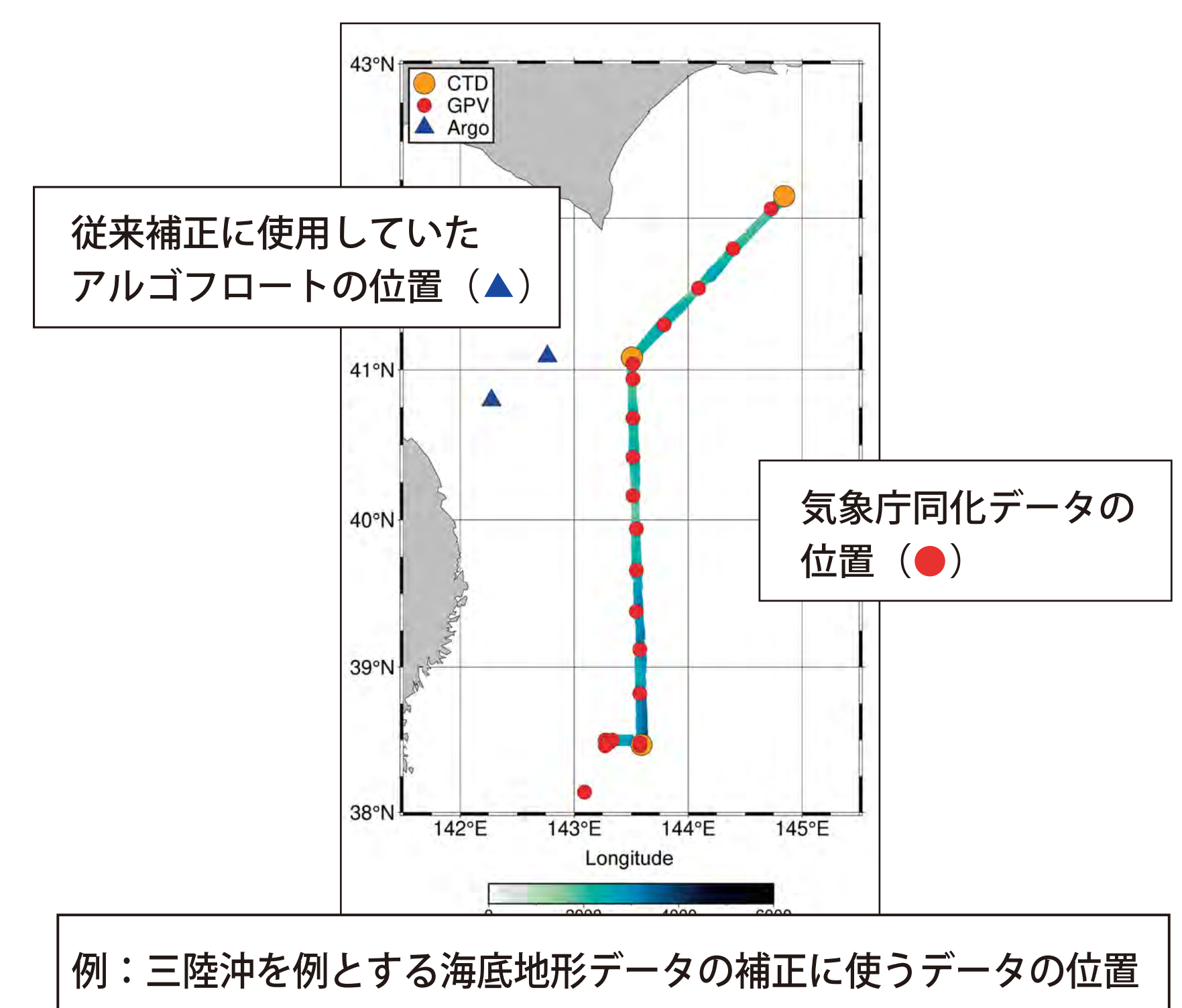
論文・根拠データのオープンアクセス化への対応

統合イノベーション戦略推進会議が策定した「学术论文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」に対応するため、関係部署との協働により、論文・根拠データのオープンアクセス化に向けた「JAMSTECにおける研究成果の公開に関する手引き」を策定、所内サイトに公開した。手引きの整備・公開により、研究成果公開に関する所内運用の標準化が進み、研究者・担当部署の対応負担軽減、公開判断の迅速化等が期待される。



海底地形データの品質安定化

従来、回航中に取得される海底地形データの音速補正には、近傍のアルゴフロートによる水温・塩分データを用いていた。しかし、アルゴフロートの分布頻度では、データの時空間的な整合性に限界があり、補正精度やデータ取得から公開までのタイムラグが課題となっていた。そこで、気象庁から配信される同化データを用いた新たな音速補正手法を導入し、海底地形データの品質の安定化を図った。これらの変更により、データ取得から公開までのタイムラグが短縮（1年間→6ヶ月）され、処理にかかる人的コストも低減（半年間で2-3人日）させることになり、データを迅速かつ低コストで提供できることとなった。



研究成果の社会展開に向けた意見収集や地域・教育機関との連携（管理課）

社会から寄せられた研究活用ニーズ

研究成果の社会展開に向け、地域や教育機関との連携を通じた情報発信・対話・人材育成に取り組んでいる。「TSUNAGU CITY 2026 in NAGO」では、REISの海洋デジタルツインおよび微気象シミュレーション研究を紹介し、来場者との対話を通じて研究成果の活用方法や期待に関する意見を収集した。



地域・教育機関との連携

名護博物館と連携し、講義・ワークショップ・博物館見学を組み合わせた宿泊型のハイレベル型体験プログラム「海の生物多様性とわたしたちのつながり」を開発・実施。海洋生物多様性、データ収集・発信、研究成果の社会活用等について学ぶ機会を提供するとともに、海洋科学分野の仕事や進路を紹介した。



▲沖縄県子ども科学人材育成事業
ハイレベル講座 名護博物館での学習の様子



▲海の生物多様性を学ぶワークショップの様子